

# 001 健康経営 取り組み事例

企業  
プロフィール

Eat Well, Live Well.



## 味の素株式会社

業種 4 食料品

従業員数 3,480名(2024年3月)

### 01 目的

味の素グループは、「アミノサイエンス®で人・社会・地球のWell-beingに貢献する」を「志」(パーパス)として掲げている。「志」(パーパス)を実現する従業員がイキイキと働きイノベーションを創出できるよう、従業員のこころとからだの健康を維持・増進し、Well-beingを高める職場環境づくりを推進している。

### 02 課題・目標

#### 健康経営で解決したい経営上の課題



#### 課題 ① 組織のパフォーマンス向上

健康経営で解決したい経営上の課題	一人ひとりのHealth Well-beingの向上により「『アミノサイエンス®で人・社会・地球のWell-beingに貢献する』すべての従業員が働きがいを感じられる会社の実現」を目指す。
健康経営の実施により期待する効果	従業員とその家族の健康が最も重要な経営基盤の一つと考え、「職場の栄養改善」やセルフ・ケア向上施策を展開。従業員やその家族の健康を維持・増進により、社員のパフォーマンス向上や働きがい向上につなげる。

#### 自社従業員(組織)の課題と目標

#### 重点課題1



#### ⑬メンタルヘルス不調等のストレス関連疾患の発生予防・早期発見・対応に関する課題

#### 課題内容

コロナ禍を受けてテレワーク中心の就業する環境下でのストレスにより、健康リスクを高める恐れがあった。ストレスを予防しセルフ・ケア維持向上させ健康行動レベルを保持でき生産性を維持することが最大の課題。また、メンタル休業から復職後の就業継続率の良好な水準の維持も課題。

#### 目標

#### メンタル休業後の3年就業継続率

	数値	年度
取組前実績値	80%	2019年度
現在の実績値	78%	2022年度
目標値	前年度より改善することを目標としている	

#### 重点課題2



#### ⑨生活習慣改善(運動・睡眠・食生活等)に関する従業員の課題

#### 課題内容

全従業員における生活習慣病リスクの増加。BMIやHbA1cの有所見率が各々悪化し、その内訳では軽症に分類される者が増加し、特にHbA1cの有所見率が増加している。その要因は、在宅勤務・デスクワーク増加に伴う運動不足と推察している。

#### 目標

#### 主要健診2項目のリスク割合の減少

	数値	単位	年度
取組前実績値	22.9%	血糖有所見者	2017年度
	10.0%		
現在の実績値	21.2%	血糖有所見者	2023年度
	7.3%		
目標値	前年度より改善することを目標としている		

※血糖有所見者:HbA1c $\geq$ 5.6、血圧有所見者:収縮期 $\geq$ 140or拡張期 $\geq$ 90 ※適正糖質セミナーは2018年度より展開、健診戦は2020年度より展開

### 04 健康経営の成果

#### 経営上の課題に対する健康経営の成果

従業員を対象とした毎年実施するエンゲージメントサーベイの「健康/Well-being」の好意的回答スコア(満点100)を高水準で維持・向上することを目標としている。2024年度は84(前年度83)で、会社の健康経営の取組みが従業員の好意的評価を受けて従業員のパフォーマンス向上にも貢献している。

### 03 施策・実績

#### 健康経営の取り組み

##### 施策内容(重点課題1)



#### 「全従業員を対象とした定期健康診断後の全員面談」 「メンタルヘルス回復及び再就業支援プログラム」

##### 具体的な実践内容1

分類	自社組織
名称	メンタルヘルス回復及び再就業支援プログラム
内容	休業者が、自分の「価値観と本来の生きがい」を認識し、ストレスとうまく付き合うことで、なんとか働ける状態ではなく、イキイキと働ける状態を目指す支援プログラム
導入時期	2018年完成
評価(定量・定性)	●メンタル休業後4年を経過している就業継続率は77.8%。 ●J-ECOスタディ4年就業継続率61.6%の報告と比較しても良好

##### 施策内容(重点課題2)



#### 「定期健診後の全員面談」 「健康パーソナルポータルサイトでの情報提供」 「定期健康診断の新展開」、「社食での健康メニュー提供」

##### 具体的な実践内容1

分類	自社組織
名称	全員面談
内容	セルフ・ケア向上を支援するための、健康診断後の個別全員面談
導入時期	2001年より実施
評価(定量・定性)	●セルフ・ケアの向上、疾病の早期発見・早期予防、自覚のない不調の発見・対応、従業員との信頼関係の構築(=セーフティネット)、組織文化診断、各種有所見率の改善につながる

##### 具体的な実践内容2

分類	外部サービス
名称	総合健康管理システム
提供元社名	NTTテクノクロス株式会社
内容	健康管理業務を幅広くカバー。各種健診、ストレスチェックのデータを一元管理。業務にあわせたカスタマイズが可能、このDBからMy Healthにデータ提供
導入時期	2018年度
選択理由	●機能・性能 ●実績 ●サービス・製品の可能性
評価(定量・定性)	●健康に関する情報を一元管理。このDBから個人向けの健康webサイトである「My Health」にデータ提供。従業員が自分の健康状態をPC上で一元的に把握するのに貢献 ●健診の準備から実施管理まで対応。個人健康管理と集計、メール案内やアンケート機能あり。オプションとしてストレスチェックにも対応。 ●全国展開している大手企業に多数導入実績あり。 ●業務にあわせたカスタマイズが可能。

#### 取り組みにおける課題や困っていること

実施している施策の課題	●更なる行動変容につながる施策展開 ●戦略マップで明記した項目間での、定量的/定性的な相関関係の更なる明確化 ●他業界・他社比較や共通アセスメントなどを通じた健康度のモニタリング・可視化
今後取り組みたい施策の課題	●他社とコラボしての健康経営の更なる高度化 ●データドリブンにもとづく健康経営取組み更なる進化 ●グローバル規模のWell-being向上への貢献、プラットフォーム構築

##### 具体的な実践内容3

分類	外部サービス
名称	健診戦
提供元社名	博報堂DYグループ
内容	定期健康診断を活性化させる施策
導入時期	2020年度
選択理由	●サービス・製品の可能性
評価(定量・定性)	●健診戦参加者の方が非参加者に比べ、BMIの維持・改善率が有意に高い。健診戦参加の有無で、健康状態/行動で差があり、健診戦によって悪化抑制効果があった。 ●本年度と昨年度の定期健康診断結果の「健康改善度」を可視化し、この1年間で特に健康維持・増進をした従業員を表彰するヘルスエンターテイメントは、セルフ・ケア促進の重要な施策となっている。

##### 具体的な実践内容4

分類	自社サービス
名称	適正糖質セミナー
内容	糖質適切な摂取に基づく栄養バランスの取れた栄養指導
導入時期	2018年
評価(定量・定性)	●食後血糖を自己採取し、血糖値スパイクのリスクを認識させ、適正糖質コントロール法を紹介する食事指導セミナー(集合セミナー形式が基本)。VOD方式でも展開し、施策参加率を延ばすことができ、行動変容率も一時的に改善された。

##### 具体的な実践内容5

分類	自社組織
名称	My Healthランチ
内容	当社社員食堂で提供する「おいしく食べて健康にプラス」となるランチ。標準的な栄養バランスを満たす(段階的に減塩)と同時に、「おいしくたのしい」「満足感」を満たすメニュー
導入時期	2018年
評価(定量・定性)	●「ラブベジ®」プロジェクト(野菜喫食率促進の当社企画)と連動して従業員参加型で施策強化。塩分量も3.0g以下に設定し、自然と健康になるように導いている

#### データ活用事例

事例名	従業員の健康関連情報の可視化
内容	「My Health」を活用し様々な健康関連情報を可視化。従業員がいつでも健診結果だけでなく就労情報や健康年齢なども確認できセルフ・ケア向上に役立つ様々なWebinar動画コンテンツ視聴や健康保険組合の情報も入手可能。
利用データ	健康診断、問診、ストレスチェック、就労データ(所定外労働時間、総実労働時間、有給休暇取得日数)、ライフログ
利用者(ユースケース類型)	従業員 ユースケース3